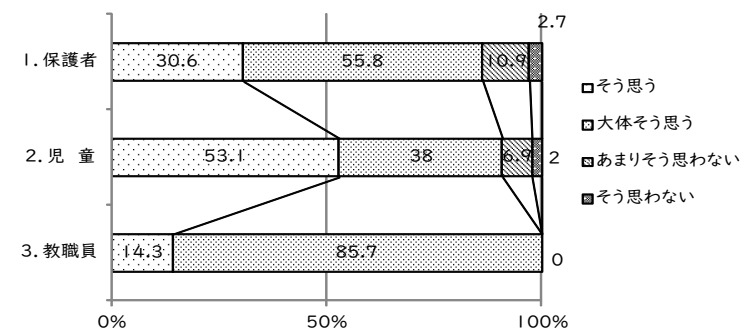




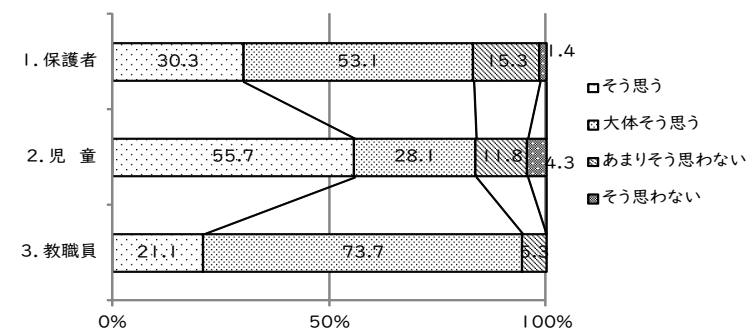
令和3年度 伏見南浜小学校 第2回学校評価 アンケート結果と考察 ～学習面・自由記述欄(大人)～

学校評価アンケートは、保護者・児童・教職員の3者が日々の生活を振り返り、今後への改善につなげるものです。子どもたちの頑張っている姿、そして保護者の方々からの学校に対する期待を十分に受け止め、今後の学校教育活動へと生かし、より良い伏見南浜小学校にしていきたいと考えています。

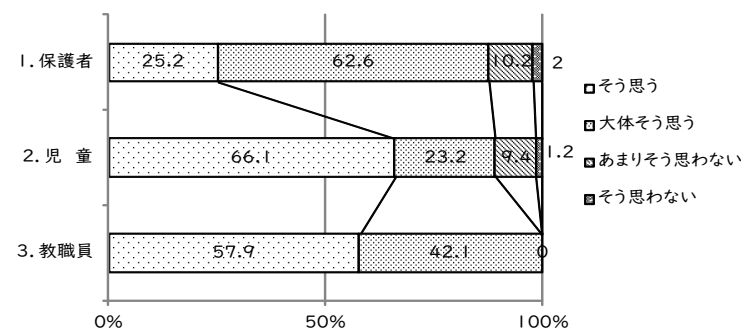
- ⑥ 1. 我が子には、読む・書く・計算するといった、基礎的・基本的な学力が身についている。
2. けいさんやかんじ(ひらがな・カタカナ)のちからが、みについている。
3. 読む・書く・計算するといった基礎的・基本的な学力が身についていると思う。



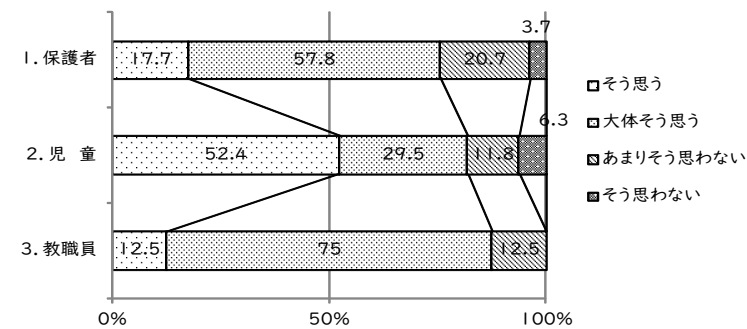
- ⑦ 1. 我が家では、家庭学習の習慣が定着するように働きかけている。
2. おうちで、じぶんから、しゅくだいやがくしゅうをしている。
3. 家庭学習の習慣が定着していると思う。



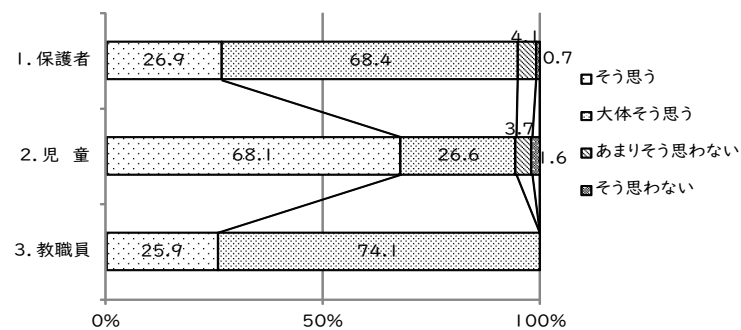
- ⑧ 1. 学校・学年・学級だより等のお知らせを丁寧に読んでいる。
2. がっこう・がくねん・がっきゅうのおたよりを、おうちのひとにわたしている。
3. 学校・学年・学級だより等のお知らせを、子どもと丁寧に読んでいる。



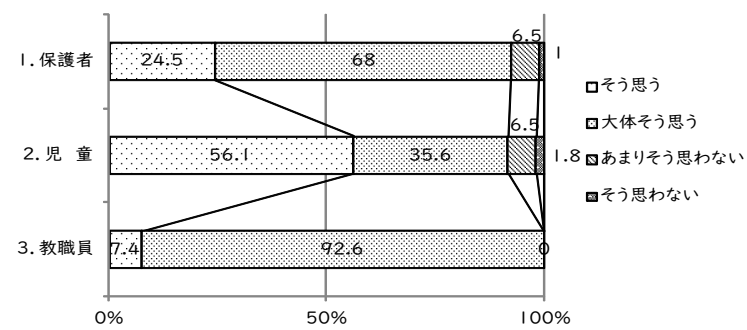
- ⑨ 1. 本校の学校教育目標を知っている。
2. がっこうのきょういくもくひょうがわかる。
3. 本校の学校教育目標が、子どもや保護者に伝わっていると思う。



- ⑩ 1. 学校が「子どもたちの過ごしやすい学校づくり」を進めていることを感じる。
2. あんしんして、がっこうですごしている。
3. 「子どもたちの過ごしやすい学校になっていると思う。」



- ⑪ 1. 学校が「子どもたちの力がつく学校づくり」を進めていると感じる。
2. がっこうでがくしゅうしたことをおして、じぶんがせいちょうしたとわかる。
3. 子どもたちの力がつく学校になっていると思う。



～学習面～

- ⑥「基礎的・基本的な学力」について、7月のアンケートでは約11%の教職員が「基礎的・基本的な学力が身につくように取り組んでいる」ことに「あまりそう思わない」と回答していましたが、今回1月のアンケートでは教職員一丸となって、伏見南浜小学校の子どもたちへの学力向上に向けての取組を行っていると感じることが分かります。伏見南浜小学校の目指す資質・能力の一つに「基礎力」があります。学校では、今年度から本格的にGIGA端末を活用した授業づくりを進めています。その中で、自分の考えをまとめたり、発信したり、また、友だちと交流したりする場面を設定しています。また、デジタルドリル「ミライシード」を活用して、個々の力に応じた復習問題をするを通して、「分かる・できる」楽しさを味わわせ、子どもたちの学習意欲を高めるようにしています。今後も授業改善や補充学習の充実を図り、さらなる子どもたちの学力向上へと取り組んでいきたいと思っています。
- ⑧「お便り」について、7月の結果と大きく変わったのは、教職員の数値です。「学校・学年・学級だより等のお知らせを丁寧に読んでいるか」について教職員の「そう思う」の数値が、7月は約30.4%だったのに対して、1月は約58%と大幅に上昇しています。今回のアンケートの自由記述欄「地域と保護者と学校が連携して教育活動を行うためにどんな工夫ができますか。」でもありましたが、学校から考えや情報を発信して、共有していくことが、子ども理解の第一歩でもあるのではないかと思います。
- ⑩「子どもたちの力がつく学校づくり」に関する質問については、⑥の結果と反対に、教職員の「そう思わない」が0%だったにも関わらず、「そう思う」が、7月約22%から、約7%へと減少しました。子どもたちの学力向上を常に意識した学習指導を心がけていきたいと思っています。

～自由記述欄～

○保護者「地域と保護者と学校が連携して教育活動を行うためにどんな工夫がありますか。」

- ・地域の高齢者との積極的なふれあい。古き良き時代の遊びや考え方を教えていただいて子どもたちの知識になればよいと思います。
- ・朝や下校時の見守りも地域とのつながりには欠かせないと思います。
- ・この地域ならではのイベントに参加する。
- ・プログラミング教育などの専門の知識や技術が必要な内容の教育に地域の方（保護者も含めて）の協力を得る。
- ・コロナ禍で学校生活が見えにくい（参観などが減り）ため、オンラインで授業を参観する。
- ・ホームページだけでなく、LINE等も活用し、学校からの発信やアンケート機能で保護者とのコミュニケーションをとる。（デジタルツールの効果的な活用）
- ・近所の子どもたちが帰ってきたら「おかえり」と声掛けをしている。
- ・あいさつをしあう。大人が積極的に挨拶をする姿を見せることで子どもたちが気付いてくれるのではないかと思います、実践している。
- ・授業参観や運動会などの行事を開催し、子どもたちと関われる機会を設ける。
- ・地域にある企業・工場・大学などの世代や職業を超えたグループとの交流を行い、教科書では習わないことを体験させる。
- ・地域の行事、イベント、ボランティア活動等を通じて、子どもたちに様々な経験をさせる。
- ・情報の発信と共有。
- ・些細なことから気兼ねなく相談できる環境づくり。
- ・教職員や地域、保護者による本の読み聞かせ。

○教職員「地域と保護者と学校が連携して教育活動を行うためにどんな工夫ができますか。」

- ・ボランティアやゲストティーチャー等地域の方や保護者の方にも教育活動に参加してもらう。
- ・お便り等で学びの内容や活動、子どもたちの頑張っている姿や良いところを丁寧に知らせていきたい。
- ・まずは学校生活において子どもたちと信頼関係を結ぶこと。その毎日の営みが保護者や地域との信頼へとつながるのではないかと考えている。
- ・できる限り地域や保護者の方の「声」を聴く機会を確保し、また、学校の考えや思いも丁寧に伝えていく。

開かれた学校づくりを目指していくために、学校教育活動に地域の方々や保護者の方がゲストティーチャーとして、どんどん参画して下さる機会を増やしていきたいと思っています。そして、地域と保護者と学校が連携して、地域の宝である子どもたちの育ちを見守っていききたいと思います。

